

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2009年度 前期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

2009

Introduction to the term end questionnaire results

Randolph H. Thrasher, President

I would like to begin by pointing out the difficulties of interpreting the data reported here. The figures reported on pages 4 to 14 are the combined ratings of a large number of teachers—both full-time and part-time. There are, of course, differences in the ratings given by the students to different teachers. In statistical terms, the means reported here have relatively large standard deviations (標準偏差). This means that, unless the differences between two means are relatively large, the difference between them is probably not statistically significant. In other words, any small differences in the means are most likely a matter of chance and not real differences.

We also need to remember that these teachers are teaching in three different programs that are very different in nature and which also differ in educational approach. We can see these differences reflected in the student responses to question 15 which asks about the amount of time that students studied outside of class. The data show that the Hoiku students spend the least time doing homework and the English department students, the most. But I believe that this difference can be traced to the fact that the Hoiku has more hands-on classes that do not demand much student preparation. The slight difference between the amount of time that General Education students report spending doing homework and the amount of time English Department students report is probably due to the fact that the English Department has more classes that meet several times each week and that General Education classes tend to meet once a week and to be larger than most English Department classes. But, as I mentioned above, the 0.06 difference in the means for General Education (2.19) and the English Department (2.25) may be a matter of chance.

However, even considering the difficulties of interpreting this data, I can say that we continue to do well in most areas. The students have consistently rated their teachers highly on question 3 (zeal for teaching) and given their classes a high rating overall (question 16). However, there is one area that we especially need to improve. The amount of homework the students report doing is still below what I would hope they would do.

Both faculty and administrators can feel a justified pride in the education that we are providing, but, both individually and collectively, we need to search for ways to improve our teaching by building on our strengths and working especially hard to overcome our weak points.

巻頭言

2009年度前期・学生による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

学長 Randolph H. Thrasher

はじめに、ここに報告されているデータを解釈するにあたり、その難しさを指摘させていただきたいと思います。4ページから14ページにわたって記載されている図表は、専任教員と非常勤教員を合わせた多数の教員に対する評価をまとめたものです。もちろん、学生からの評価については教員によって様々でしょう。統計学的な表現を用いると、ここに報告されている平均値は比較的標準偏差が大きいと言えます。これは、2つの平均値の差が相対的に大きくない限り、その差はおそらく統計的に有意でないということです。言い換えれば、平均値間のどの小さな差も偶然に出た結果であり、実質的な差とはみなされないのです。

さらに、教授陣は性格の全く異なる3つの教育課程（保育科、英語科、総合教育系）に属し、それぞれ異なる教育方法に拠っているということにも留意が必要です。Q15では週あたりの宿題・予習にかけける時間を尋ねていますが、学生の回答にはそれらの違いがよく反映されていると思います。データによれば保育科の学生は英語科の学生に比べて宿題や予習に費やす時間が短いのですが、これはそもそも保育科の授業というのはより実践的な授業が多く、そのような授業ではあまり多くの予習を必要としていないからではないでしょうか。総合教育系の科目と英語科の科目に見られる僅かな自主学習時間の差というのは、おそらく英語科が1科目につき週に数回授業がある事が多いのに対し、総合教育系の授業は1科目につき週1回であることが多く、クラスの規模も大きい傾向にあるという事実からくるものだと思います。しかし、総合教育系（2.19）と英語科（2.25）のわずか0.06の差は、上述した通り単なる偶然なのかもしれません。

しかし、このデータの解釈の難しさを考慮したとしても、ほとんどの分野において良い結果が見られるといえるでしょう。Q3の教員の授業への熱意、Q16の授業全体についての評価へは学生が一貫して高く評価しています。ただ、学生の自主学習時間は私が期待しているよりも短いので、これは特に改善が求められる点です。

教員も事務職員も、私たちが提供している教育に誇りを持って然るべきでしょう。今後、私たちの長所を活かした短所を克服することで、教育改善に向けた探求を個々人のレベルでも組織的レベルでも継続することが必要ではないでしょうか。

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会委員（2009年度）

Randolph H. Thrasher（委員長・学長）

山城 真紀子（委員・短期大学部長）

仲 座 栄利子（委員・英語科長）

吉 村 壮 明（委員・保育科長）

青 野 和 彦（委員・総合教育系主任）

金 永 秀（委員・宗教部長）

仲 地 弘 善（委員・図書館長）

高 崎 正 名（委員・キャリア開発部長）

城 間 仙 子（委員・教学部長）

上 原 明 子（委員・入試部長）

仲 門 勇 市（委員・事務局長）

武 村 朝 吉（委員・企画推進課長）

執筆者

上 原 明 子（総合教育系）

柳 田 正 豪（英語科）

照 屋 建 太（保育科）

以上

沖縄キリスト教短期大学
2009年度前期
学生による授業評価報告書

第1章

授業評価の概要

1 学生による授業評価の概要

2009年度前期の授業評価アンケートを、2009年7月中旬に実施した。対象は、すべての開講科目クラス（91科目、164クラス）とした。クラス数は実習科目（施設、保育、教育、海外研修）および10名以下の授業は含めていない。分析に投与された評価票は、4,387件であった。評価は5段階法を採用しており、1点を最低、5点を最高の評価としている。各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。

以下、各設問に対する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。

Q1「先生は、学期始めに授業の目的およびこの授業で学生のなすべきことについて明確に説明しました」

「5」評価が72.0%、「4」評価を加えると92.2%であったことから、教員の授業目的や概要の説明は適切に実施されていると捉えることができよう。ただ、前年度前期より約2%落ち込んだため、今後も努力を続けていく必要がある。

Q2「先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました」

「5」評価が68.6%、「4」評価を加えると89.5%であった。この設問も前年度前期より落ち込み、今回は90%を割り込んだ。各教員はさらに宿題・試験・成績について説明努力を続けていく必要がある。

Q3「先生は、授業について熱意がありました」

「5」評価が77.6%、「4」評価を加えると93.4%であったことから、本学学生は教員の授業に対する熱意を十分感じ、評価していると考えられる。なお、17の設問のうち、「5」の評価の割合が最も高いのが本設問であり、本学教員に対する評価として肯定的に受け止めて良いであろうと考えられる。しかし、前年度前期より1.2%落ち込んでおり喜んではいられないのも事実である。さらに努力を続ける必要があるだろう。

Q4「先生の授業は、とてもわかりやすかった」

「5」と「4」の評価を合わせると81.0%であり、良好な結果であると捉えて良い。しかし、一方で「3」「2」「1」を合計すると19.0%に達し、およそ20%近くの学生が「わかりやすかったとは言えない」と感じている。例年、似たような傾向が認められることから、教員の授業内容を改善する試みは続ける努力が必要である。

Q5「先生の授業の準備はよくできていました」

「5」評価が70.8%、「4」評価を加えると89.7%であったことから、本学教員の教材研究や準備等は適切になされていると考えられる。しかし、他設問と同様、前年度前期よりも結果は落ち込んでいる。しっかり準備を整え、9割を超える努力が必要と思われる。

Q6「先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました」

「5」評価が65.4%、「4」評価を加えると85.7%でおおむね良好な結果であると捉えて良い。これからも努力を続け、9割を超える目標を立てて努力していく必要があるだろう。

Q7「先生の授業は、時間通りに始まり、時間通りに終わりました」

「5」評価が 73.9%、「4」評価を加えると 90.3%であったことから、本学教員の授業時間管理がほぼ適切になされていると捉えることができる。しかし、前年度前期より約 2%落ち込んでいるので計画的に授業を行う努力は必要だろう。

Q8「授業でわからないことを質問する機会や工夫がありました」

「5」と「4」の評価を合わせると 85.8%であり前年度前期の 88.8%より落ち込んだ。学生の学習環境において、理解度を上げるための特別な対応が今後ますます必要と考えられる。また、学生にしっかり理解してもらうため質問をする時間を授業内に取り入れることも重要であろう。

Q9「先生は、授業を乱す行為(私語、携帯電話、居眠り、中座等)」に対して適切に対応していました。」

「5」と「4」の評価を合わせると 86.6%であり、おおむね適切な対応を教員は取っているものと考えて良いだろう。しかし、この結果も前年度前期より若干落ち込んでおり、約 13%の学生は教員の対応に満足していない。今後は授業環境、学習環境そのものの整備においても、さらに教員の努力が必要と思われる。

Q10「私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように勧めたい」

「5」と「4」の評価を合わせると 83.4%であるが、前年度前期とほぼ同じ値であった。さらに努力を続け、9割を目標としていきたいものである。

Q11「私は、この授業に熱意を持って取り組みました」

「5」と「4」の評価を合わせると 85.1%であり、本学学生は多くの科目において熱心に取り組んでいると評価して良いだろう。

Q12「私は、授業の学習にあたり、シラス(講義要項・学習計画)を参考にしました」

「5」評価が 46.4%、「4」の評価は 22.1%、「3」は 22.2%である。例年よりも若干改善されたが標準偏差が 1.0 を超え、回答にばらつきがあると捉えることもできる。特に英語科では授業登録は自分で行っているが保育科ではアドバイザークラス単位で登録を行っている事実がある。例年の改善が見られない項目であるためどのようにシラスを事前に読んでもらえるか登録前オリエンテーションの方法を検討していく必要がある。

Q13「私は、授業中、私語や携帯電話・中座など、授業を乱す行為をしませんでした」

Q11 における結果と共通する傾向にあり、「5」と「4」の評価を合わせると 88.3%であった。学生は熱心に授業に取り組んでいると理解できる。

Q14「私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした」

「5」と「4」の評価を合わせると 84.8%で前年度前期より 2%上昇した。また「3」「2」「1」を合わせると評価は 13.3%であった。8割以上の学生が遅刻や欠席をしていないと言うことは結果が良いと言える。

Q15「私は、この授業のために週あたりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」

選択肢はそれぞれ、「5」評価が 2.6%、「4」評価が 5.5%で「3」「2」「1」評価を合わせると 88.4%にのぼる。多くの学生で週あたりの学習時間は 1 時間以内という結果となった。しかし、前年度前期の結果より「5」「4」が減少しており、本学学生は授業時間以

外において、あまり学習時間を設けていないと言える。

Q16「この授業を全体的に評価してください」

選択肢はそれぞれ、「5」秀、「4」優、「3」良、「2」可、「1」不可、「0」わからない、である。平均は 4.00 でおおむね肯定的な評価が得られていると考えられる。「5」「4」の評価を合わせると 73%であった。多くの学生が満足している一方、およそ 3 割の学生が満足していない。学生の意見を取り入れ、可能な限り評価が上がるように努力する必要があるだろう。

Q17「私は、この先生の別の科目も受講したいと思います」

教員に対する期待を示す項目であると捉えることができよう。「5」「4」の評価を合わせると 74.2%、平均値は 4.25 であり、Q16 の質問同様、教員は学生の期待に応えられるよう、日々の努力が求められている。

Q1授業の目的

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	9	.2	.2	.2
	2	39	.9	.9	1.1
	3	293	6.7	6.7	7.8
	4	886	20.2	20.2	28.0
	5	3155	71.9	72.0	100.0
	合計	4382	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.1		
	合計	4387	100.0		

Q2成績評価方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	20	.5	.5	.5
	2	64	1.5	1.5	2.0
	3	376	8.6	8.6	10.6
	4	915	20.9	20.9	31.5
	5	3005	68.5	68.6	100.0
	合計	4380	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計	4387	100.0		

Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	11	.3	.3	.3
	2	34	.8	.8	1.1
	3	245	5.6	5.6	6.7
	4	691	15.8	15.8	22.5
	5	3397	77.4	77.6	100.1
	合計	4378	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	.2		
	合計	4387	100.0		

Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	73	1.7	1.7	1.7
	2	184	4.2	4.2	5.9
	3	573	13.1	13.1	19.0
	4	895	20.4	20.4	39.4
	5	2655	60.5	60.6	100.0
	合計	4380	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計	4387	100.0		

Q5準備よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	16	.4	.4	.4
	2	54	1.2	1.2	1.6
	3	380	8.7	8.7	10.3
	4	829	18.9	18.9	29.2
	5	3101	70.7	70.8	100.0
	合計	4380	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計	4387	100.0		

Q6理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	43	1.0	1.0	1.0
	2	94	2.1	2.1	3.1
	3	489	11.1	11.2	14.3
	4	889	20.3	20.3	34.6
	5	2863	65.3	65.4	100.0
	合計	4378	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	.2		
	合計	4387	100.0		

Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	36	.8	.8	.8
	2	67	1.5	1.5	2.3
	3	317	7.2	7.2	9.5
	4	720	16.4	16.4	25.9
	5	3236	73.8	73.9	99.8
	合計	4376	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	11	.3		
	合計	4387	100.0		

Q8質問の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	47	1.1	1.1	1.1
	2	104	2.4	2.4	3.5
	3	463	10.6	10.6	14.1
	4	869	19.8	19.8	33.9
	5	2891	65.9	66.0	99.9
	合計	4374	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	13	.3		
	合計	4387	100.0		

Q9授業妨害へ対処

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	27	.6	.6	.6
	2	78	1.8	1.8	2.4
	3	479	10.9	10.9	13.3
	4	921	21.0	21.0	34.3
	5	2872	65.5	65.6	99.9
	合計	4377	99.8	99.9	
欠損値	システム欠損値	10	.2		
	合計	4387	100.0		

Q10薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	82	1.9	1.9	1.9
	2	122	2.8	2.8	4.7
	3	522	11.9	11.9	16.6
	4	884	20.2	20.2	36.8
	5	2770	63.1	63.2	100.0
	合計	4380	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計	4387	100.0		

Q11熱意を持って参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	19	.4	.4	.4
	2	76	1.7	1.7	2.1
	3	555	12.7	12.7	14.8
	4	1126	25.7	25.7	40.5
	5	2602	59.3	59.4	99.9
	合計	4378	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	.2		
	合計	4387	100.0		

Q12シラバス参考

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	167	3.8	3.8	3.8
	2	239	5.4	5.5	9.3
	3	971	22.1	22.2	31.5
	4	970	22.1	22.1	53.6
	5	2032	46.3	46.4	100.0
	合計	4379	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
	合計	4387	100.0		

Q13授業を中座しない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	12	.3	.3	.3
	2	58	1.3	1.3	1.6
	3	439	10.0	10.0	11.6
	4	965	22.0	22.0	33.6
	5	2902	66.1	66.3	99.9
	合計	4376	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	11	.3		
	合計	4387	100.0		

Q14遅刻欠席ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	25	.6	.6	.6
	2	120	2.7	2.7	3.3
	3	508	11.6	11.6	14.9
	4	763	17.4	17.4	32.3
	5	2950	67.2	67.4	99.7
	合計	4366	99.5	99.7	
欠損値	システム欠損値	21	.5		
	合計	4387	100.0		

Q15予習復習時間

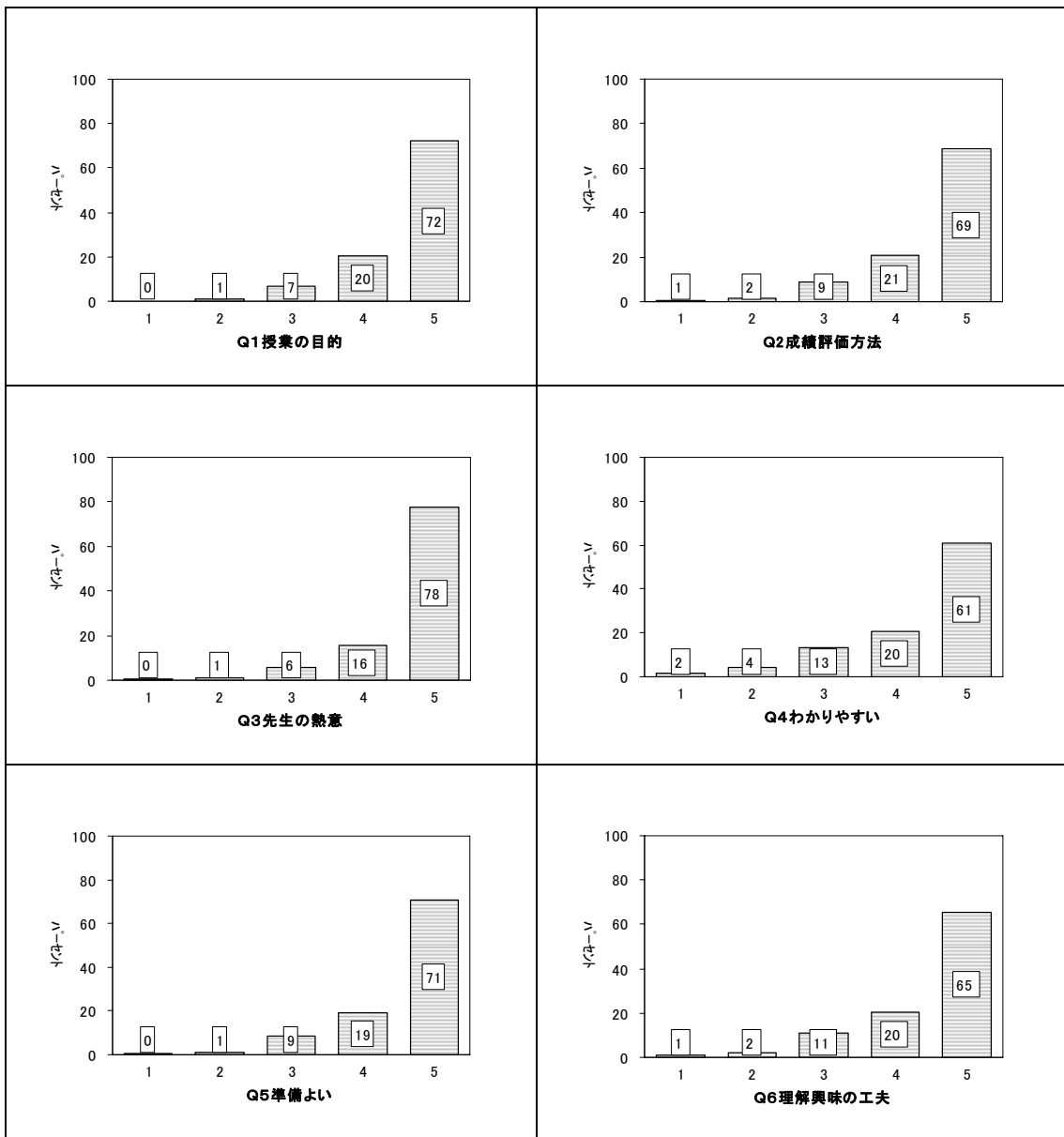
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1548	35.3	35.3	35.3
	2	1409	32.1	32.2	67.5
	3	914	20.8	20.9	88.4
	4	241	5.5	5.5	93.9
	5	115	2.6	2.6	96.5
	合計	4227	96.4	96.5	
欠損値	システム欠損値	160	3.6		
	合計	4387	100.0		

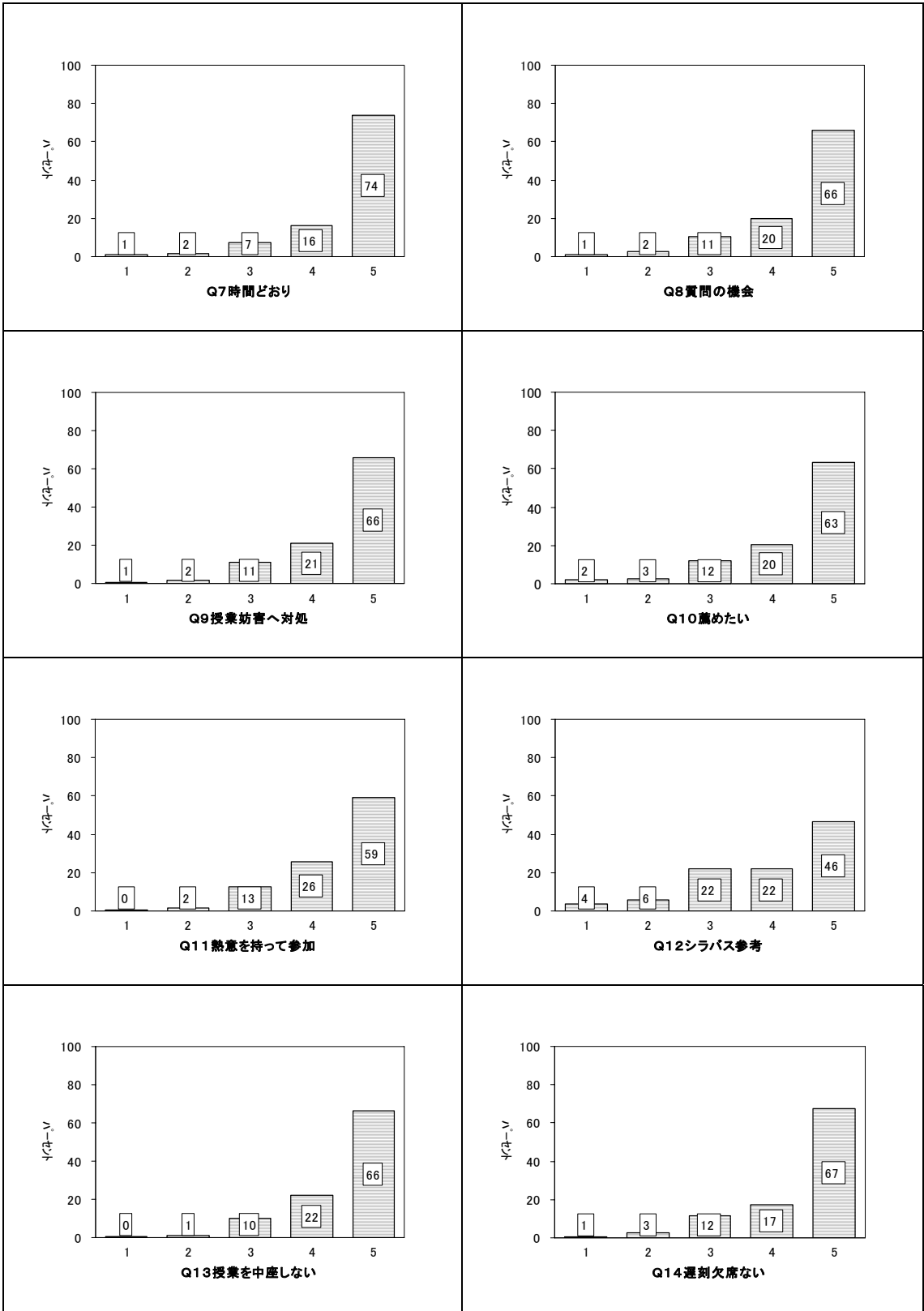
Q16全体的評価

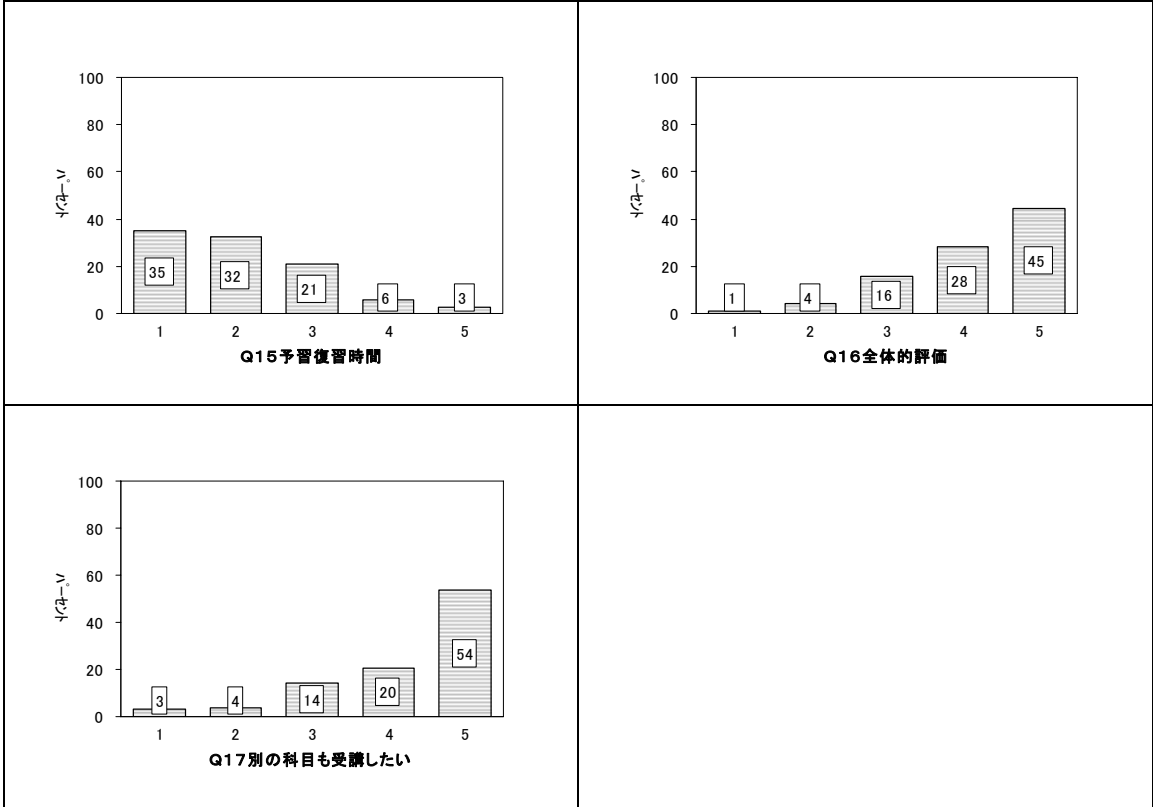
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	196	4.5	4.5	4.5
	1	40	.9	.9	5.4
	2	183	4.2	4.2	9.6
	3	694	15.8	15.8	25.4
	4	1241	28.3	28.3	53.7
	5	1956	44.6	44.7	98.4
	合計	4310	98.2	98.4	
欠損値	システム欠損値	77	1.8		
	合計	4387	100.0		

Q17別の科目も受講したい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	126	2.9	2.9	2.9
	2	155	3.5	3.5	6.4
	3	620	14.1	14.2	20.6
	4	888	20.2	20.3	40.9
	5	2359	53.8	53.9	94.8
合計		4148	94.6	94.7	
欠損値	システム欠損値	239	5.4		
合計		4387	100.0		







2 全体の評定結果

平均値を前年度（前期）と比較すると、Q12「シラバス参考」が 3.85→4.02 に上昇した。学生が適切にシラバスを参考に行っている表れと言えよう。しかし Q15「予習復習時間」に関しては依然として 2.05 と低い。予習や復習時間を増加させるためには、授業内での工夫が必要であろう。小テストを課する機会を増やすなど、いろいろアイデアはある。

教員要因では Q9「授業妨害へ対応」以外の全ての項目で、評価が前年度（前期）より落ちている。特に落差が目立つのが Q8 の「質問の機会」であり、その次に Q2 の「成績評価方法」である。この Q8 と Q2 には学生の成績が関連しており、その不満が今回の評定に表れたと考えられる。

学生要因では、上記の Q8 と Q2 に関連している Q11 の「熱意をもって参加」が落ちている。質問の機会が与えられず、また成績評価に対して不満があれば、熱意をもって授業に参加することができなくなるのは、当然のことであろう。上記の Q8 と Q2 が改善されれば、自ずと Q11 の評価も上昇するであろう。

今後の対策として、Q8 と Q2 に関する改善策を練るのは急務であると感じる。各教員が意識を持って取り組むべきである。

評価項目別評定結果（全体）

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	4382	1	5	4.63	.667
Q2成績評価方法	4380	1	5	4.56	.749
Q3の熱意	4378	1	5	4.70	.632
Q4わかりやすい	4380	1	5	4.34	.969
Q5準備よい	4380	1	5	4.59	.731
Q6理解興味の工夫	4378	1	5	4.47	.848
Q7時間どおり	4376	1	5	4.61	.757
Q8質問の機会	4374	1	5	4.48	.856
Q9授業妨害へ対応	4377	1	5	4.49	.806
Q10薦めたい	4380	1	5	4.40	.933
Q11熱意を持って参加	4378	1	5	4.42	.808
Q12シラバス参考	4379	1	5	4.02	1.117
Q13授業を中座しない	4376	1	5	4.53	.750
Q14遅刻欠席ない	4366	1	5	4.49	.846
Q15予習復習時間	4227	1	5	2.05	1.026
Q16全体的評価	4310	0	5	4.00	1.263
Q17別の科目も受講したい	4148	1	5	4.25	1.038

3 学科ごとの評定結果

3.1 総合教育系の評定結果

前年度（前期）と比べ、17 項目中、14 項目で平均値の評価が向上している。教員要因項目の平均値では、Q3「熱意」が、4.74 と最も高い評価を得ている他、Q4「わかり

やすい」が、4.38 から 4.51、Q6「理解興味の工夫」が、4.48 から 4.61 へ上昇した。それに伴い、Q10「薦めたい」も、4.36 から 4.53 と高い評価を得ている。授業や教員に対して肯定的評価は、学生の学習意欲向上にもつながるだろう。学生要因項目の平均値は、Q15「予習復習時間」が前年度（前期）と同じ 2.19 だった以外は、全ての項目で上昇している。特に、Q11「熱意を持って参加」が、4.36 から 4.46 へ上昇していることが評価されよう。毎年の課題である、予習復習時間の低さについては、FDでの検討を要する。

総合教育系の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	968	2	5	4.72	.574
Q2成績評価方法	967	1	5	4.68	.616
Q3の熱意	967	1	5	4.74	.604
Q4わかりやすい	967	1	5	4.51	.833
Q5準備よい	966	1	5	4.70	.614
Q6理解興味の工夫	966	1	5	4.61	.730
Q7時間どおり	966	1	5	4.71	.649
Q8質問の機会	965	1	5	4.58	.749
Q9授業妨害へ対処	966	1	5	4.51	.791
Q10薦めたい	967	1	5	4.53	.804
Q11熱意を持って参加	966	1	5	4.46	.775
Q12シラバス参考	967	1	5	4.18	1.028
Q13授業を中座しない	966	1	5	4.54	.744
Q14遅刻欠席ない	964	1	5	4.52	.814
Q15予習復習時間	939	1	5	2.19	1.156
Q16全体的評価	948	0	5	4.10	1.243
Q17別の科目も受講したい	921	1	5	4.34	.960

3.2 英語科の評定結果

教員要因である項目では、前年度後期と同様にすべて 4.0 以上の評価を得ているが、5つの項目で落差が見られる。落差の一番目立つ項目はQ8の「質問の機会」となっている。英語科としては、講義の最中あるいは終盤に学生による質問の時間を設けるなどして、取り組まなければいけないであろう。

学生要因で課題であったQ15の「予習復習時間」では、前年度（前期）の2.18から2.25へと向上しており、学生の予習・復習に対する意識づけが徐々に改善されていると言えよう。

3.3 保育科の評定結果

教員要因に関しては、Q3「熱意」が4.72と最も高く、学生は教員の熱意を高く評価している。Q4「わかりやすい」は4.23であり、4「そう思う」以上の評価である。どちらも4以上ではあるが、昨年前期より評価が若干下がりがつつある。さらに努力が必

要である。

学生要因としては、Q14「遅刻欠席ない」が 4.65 と最も高く、授業への出席率の良を示している。しかし、Q15「予習復習時間」が 1.82 となっており、予習復習時間が「30分未満」の結果となっている。これは、全体を見ると最も低い評価結果となり前年度前期も同様の結果である。保育科にとって学生の自主的な学習意欲を高めることが大きな課題となっている。

英語科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1459	1	5	4.68	.612
Q2成績評価方法	1459	1	5	4.62	.693
Q3の熱意	1457	1	5	4.64	.688
Q4わかりやすい	1458	1	5	4.39	.916
Q5準備よい	1459	1	5	4.61	.710
Q6理解興味の工夫	1459	1	5	4.49	.832
Q7時間どおり	1457	1	5	4.69	.642
Q8質問の機会	1456	1	5	4.51	.839
Q9授業妨害へ対処	1459	1	5	4.51	.794
Q10薦めたい	1459	1	5	4.44	.896
Q11熱意を持って参加	1458	1	5	4.38	.838
Q12シラバス参考	1458	1	5	4.16	1.052
Q13授業を中座しない	1458	1	5	4.49	.778
Q14遅刻欠席ない	1455	1	5	4.25	.952
Q15予習復習時間	1404	1	5	2.25	.982
Q16全体的評価	1434	0	5	4.07	1.148
Q17別の科目も受講したい	1376	1	5	4.31	.999

保育科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1955	1	5	4.55	.737
Q2成績評価方法	1954	1	5	4.45	.830
Q3の熱意	1954	1	5	4.72	.600
Q4わかりやすい	1955	1	5	4.23	1.053
Q5準備よい	1955	1	5	4.51	.789
Q6理解興味の工夫	1953	1	5	4.39	.904
Q7時間どおり	1953	1	5	4.50	.865
Q8質問の機会	1953	1	5	4.40	.910
Q9授業妨害へ対処	1952	1	5	4.47	.823
Q10薦めたい	1954	1	5	4.31	1.008
Q11熱意を持って参加	1954	1	5	4.43	.800
Q12シラバス参考	1954	1	5	3.83	1.177
Q13授業を中座しない	1952	1	5	4.55	.731
Q14遅刻欠席ない	1947	1	5	4.65	.728
Q15予習復習時間	1884	1	5	1.82	.943
Q16全体的評価	1928	0	5	3.89	1.345
Q17別の科目も受講したい	1851	1	5	4.17	1.095

4 自由記述による評価

4.1 総合教育系の授業について

「1. この授業のよい点」では、「教師の熱意」に対する好感度についての記述が多かった。続いて、「わかりやすさ」「おもしろさ」等、授業に概ね満足している結果が得られた。

「2. この授業の改善点」では、「宿題の多さ」「進度の速さ」「指導の厳しさ」「声の聞き取りにくさ」が上げられている。学習者のレベルに応じた指導のあり方について研究が必要である。

「3. 感想等」では、「難しかったが自分のためになった」「やる気が出た」等の学習意欲の向上についての記述が多かった。保育科と英語科の合同クラスについては、交流が出来たことを楽しんでいる記述もみられた。

4.2 英語科の授業について

「1. この授業の良い点」に関しては、それぞれのクラスのユニークさが評価された記述が見られた。

「2. この授業の改善点」では「(授業の)進むペースが早い」、「質問の機会を増やしてほしい」、「くわしく説明してほしい」などの苦言が目立った。各担当教員による対策・改善が必要である。

4.3 保育科の授業について

「1. この授業の良い点」についての記述で「楽しい授業だった」というコメントが多く見られ学生自身、楽しく授業を受けていること捉えることができる。また、「子どもの話が多く聞けて良かった」「ディスカッションを多く取り入れていた」など参加できる授業体勢ができています。

「2. この授業の改善点」では「特になし」が多く見られるが、「もっとわかりやすく」「ゆっくり」「声が小さい」などの改善点が求められている。これらは、教員の努力により改善できると思われる。

おわりに

新年度のスタートと次につながる大事な時期である前期に、各学科において、教員の熱意、わかりやすさ、理解興味の工夫についての高い評価が得られたことは、大変に意味深いことである。学生自身も熱意をもって参加している様子が、自由記述からも伺われた。懸案の予習復習時間の低さについては、各学科、並びに教授会において、慎重に議論し、改善へ向けての努力を続けていきたい。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7月
後期 1月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問1～17について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

評 価 欄

1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5	4	3	2	1	
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5	4	3	2	1	
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5	4	3	2	1	
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5	4	3	2	1	
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5	4	3	2	1	
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5	4	3	2	1	
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおり終わりました。	5	4	3	2	1	
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5	4	3	2	1	
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5	4	3	2	1	
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5	4	3	2	1	
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5	4	3	2	1	
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5	4	3	2	1	
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5	4	3	2	1	
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5	4	3	2	1	
15. 私は、この授業のために適当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。						
	5 (3時間以上)	4 (2時間ぐらい)	3 (1時間ぐらい)	2 (30分ぐらい)	1 (ほとんどしなかった)	
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 秀	4 優	3 良	2 可	1 不可	0 わからない
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5	4	3	2	1	

科 目 名	クラス名 ()				
学籍番号*				男	
学 年	1	2	3	4	女
所属学科	1 英語科 2 保育科 3 英語コミュニケーション学科 4 科目等履修生				
入 試 区 分	1 一般入試 2 推薦入試 3 A0入試				

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

- この授業のよい点
- この授業に改善してほしい点
- この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
- 学長へ (聞いてほしいこと)

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点													
2. この授業に改善してほしい点													
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。													
4. 学長へ (聞いてほしいこと)													